

三ヶ森 青雲（みかもり・せいうん）

1、プロフィール

大野林火の「濱」、村上しゅらの「北鈴」、木附沢麦青の「青嶺」に入会。北鈴賞、青嶺賞受賞。「青嶺」同人会副会長。俳人協会青森県支部監事。青森県俳句懇話会副会長。

<生没>

1940(昭和 15)年 9 月 27 日 ~ 2022(令和 4)年 10 月 2 日

<代表作>

夕郭公下り来し山を高うせり
空海の眠る一山蝉時雨
大瀑布力緩めるすべ知らず
降る雪にある文語体口語体
男気を貫く滝となりけり

<青森との関わり>

八戸市の吉田産業に勤務。定年退職後、サンデー監査役。「青嶺」同人副会長。八戸市文化協会文芸部長を務めた。

2、作家解説

岩手県二戸市生まれ。本名、三ヶ森勝男。岩手県立福岡高校卒。高校卒と同時に八戸市の(株)吉田産業に入社。定年退職後、1年間顧問。その後、(株)サンデーに4年間監査役として勤務。俳句は、高校時代、盛岡市の高橋青湖に師事。雅号秋香。1959(昭和 34)年大野林火主宰「濱」に入会。初めて林火に選ばれた句は<朱き柿暮れ残るマルクス少し読む>である。1966(昭和 41)年「濱」退会。同年「北鈴」入会、1968(昭和 43)年に同人となり、北鈴賞受賞。1979(昭和 54)

年第 33 回青森県俳句大会において、特別選者・野沢節子選の天位〈夕郭公下り来し山を高うせり〉となる(総合第2位)。

1984(昭和 59)年「青嶺」創刊に参画、編集同人として参加。雅号を秋香から青雲にする。1993(平成 5)年青嶺賞受賞。青嶺同人会副会長を務めた。

2006(平成 18)年 4 月 1 日から 2008 年 3 月 31 日まで「デーリー東北」に「北奥羽百句百景」を、週1回、合計 100 回連載、翌年 4 月 10 日、デーリー東北新聞社から『北奥羽百句百景』として出版された。2015(平成 27)年から 2019(平成 31)年まで、八戸テレビ放送で「俳句のまちはちのへ」俳句塾を企画し、塾長として出演した。2005(平成 17)年から若い俳人育成をめざし、「俳句のまちはちのへ」学生俳句大会を立ち上げ、令和元(2019)年まで 15 年間実施した。2019(平成 31 年)から、八戸帆風美術館(本社東京)発行の季刊誌「風」に「俳句と禅」を連載した。

役職では、1982(昭和 57)年に俳人協会青森県支部監事となり、その後、幹事を経て再び監事。1990(平成 2)年に青森県俳句懇話会理事となり、2015(平成 27)年から副会長。また、2011(平成 23)年から、八戸市文化協会文芸部長。

県俳壇の重鎮として活躍した。句集には『青山河』(平成 10 年 5 月 5 日発行、青嶺叢書 12 篇)と『三ヶ森青雲句集』(平成 26 年 1 月 10 日発行、東奥日報社)の 2 冊がある。